

自治会加入促進に向けた消防団のアプローチについて

宮崎市消防団 椎屋成人

1.消防団の概要

①消防団組織（令和5年4月1日現在）※条例定数の改定による

団本部		分 団	部 数	定 数	実数・充足率
団長	副団長 副団長 副団長 副団長 副団長 副団長	青島分団	6	129	98 名・76%
		木花分団	8	150	136 名・91%
		赤江分団	11	185	168 名・91%
		大淀分団	8	154	142 名・92%
		生目分団	11	211	197 名・93%
		中央分団	4	75	59 名・79%
		檉分団	5	102	98 名・96%
		大宮分団	9	174	156 名・90%
		北分団	7	160	130 名・81%
		住吉分団	6	122	116 名・95%
		佐土原分団	16	274	224 名・82%
		田野分団	13	240	198 名・83%
		高岡分団	14	198	153 名・77%
		清武分団	19	322	223 名・69%
		女性分団	10	80	79 名・99%
		音楽隊	3	45	40 名・89%
		計：16	計：137	計：2,621	計：2,098
団本部付			ラッパ隊 ※分団所属団員兼務 20 名		
			水上バイク隊 ※14 名在籍		
			大規模災害団員 ※OB等 104 名在籍		

②団員数減少について

近年の人口及び管轄地域の世帯数変動による定数の見直しが行われたが、必要とされる団員数の確保は各分団共に困難な状況。旧町（佐土原・田野・清武）を管轄する分団の充足率の低下は年々大きく、世帯の高齢化や若者世代の都市部への流出が大きく影響している。これまで多くの若い担い手が地域で就労していたため、早期退団（部長を経験すると30代で退団）が一般的となっていたが近年、早期退団も困難な状況となっている。子育て世代の入団者が占める割合は多いが、予想される勤続年数の長さやサラリーマン世帯の増加、生活スタイルの変化により入団希望者を足踏みさせている傾向はある。

一方、都市部や団地を持つ分団では高齢世帯が多く、子育てが一段落下した世代の入団者が多く高齢化傾向にある。そのため勤続年数が高い団員が多い。若い世代との交流の場が少ないため入団をアピールする事が困難となっている。勤め先の職場や知人を介した勧誘が多くなるため地域との接点は少ない状況となっている。旧町の問題と類似点は多いが通勤して就労する職場近くで入団する者も多く存在する。住んでいる場所と遠距離なため消防団活動や地域活動への参加は負担を感じているものと思う。活動に向かうまでに時間を要する境遇のためか早期に退団をする者も多くなる傾向にあるが、欠員を補填するまでの円満な引継ぎが上手く出来ていない現状がある。各分団共に早期退団を避けるための待遇改善を行っている状況。

2.地域との関係性

地域で活動する様々な組織を良く理解していない人が多いと感じる。活動に参加しない又は興味を持たない世帯の増加は年代を問わず私の住む地域でもみられる。活動への参加要請をすると【地域活動をしている＝好きでやっている】と思っている人が多いと感じる。行政や地域活動が好きな誰かがやっている程度、地域に関心を持たない人はいつの時代もいると思うが、土日休みでは無い自営業者の参加率は高い。近年の住宅事情やライフスタイルの変化はあるが、トラブル回避や個々の生活を重視することはコロナ過を経て特に地域活動への意識低下は大きいと思う。マンションや集合住宅等、子供や親の職場繋がりでの入団勧誘をする事は多くある。子育て世代の特徴として学校以外のクラブや習い事のサポートで地元の事は100%参加出来ないと断られるケースも多く、趣味や生活サイクルを乱したくない思いもあるものかと感じるが、企業や市の仕事をしている事業所から消防団員ポイント制度を利用する目的で入団希望するケースは増加している。しかしながら期待する活動が伴わない場合もあり受け入れた分団での活動参加人員不足に苦慮している。

3.参加に対するハードル

入団すると『もっと早く入れば良かった』と言う意見も良く聞かれる。基本的には事故やケガに直結する危険な業務もあるが訓練や研修等、積極的に参加する事で知識は得られる。通常行われる資機材点検で『飲み会』的な流れも今や多くの部が自由参加となってきた強制的な参加を要請する場面も少なくなった半面、自治会の多くを消防団活動で知るケースも多く、地域を一緒に盛り上げたい気持ちの連携、きっかけを懇親会や飲み会以外の別の形を模索している。

自治会への加入要請で初対面の印象や要請の言い方で嫌になったケースを聞く事がある。今と昔では要請のあり方も工夫が必要かと思う。自治会に入ると自治会共有財産の利用（公民館等）や借用（防災倉庫の発電機等）、色々なメリットを検討してこれまでにないアピールをする事も必要だと感じる。マンションや集合住宅は希望者のみ個別加入を強力に推進して棟全体の入会イメージから脱却を試みるのも良いかと。

4.消防団活動を通じて私が考えること

これまで様々な加入特典を展開してきたがアピール力の点では弱かったと感じる。現在、入札時のポイント制度の他、消防団支援の店は衣・食・住様々な店舗や企業から協力を得て団員本人・家族カードを作って割引や特典を全国で展開中。毎年、市民文化ホールで行っているイベントでは九州で唯一の消防団音楽隊のコンサート、ラッパ隊の演奏、防火・防災を広く市民に楽しく、分かりやすく啓発する女性分団の寸劇等、地域の要請にも応えて参加する活動を行っている。昨年度から個人支給制度の改定、現在、宮崎大学学生消防サークルの活動がきっかけになった機能別学生消防隊（仮称）の設立、SNSやイベント交流のアシスト等、若い力に期待したい活動部門も検討し、地域との更なる繋がりを検討中である。消火活動や災害対応のみの危険な活動では無い事もアピールしたいと思う。消防団入団から自治会へ加入する事も視野にこれまで同様に自治会と共に消防団はあべきであると感じている。希薄となった隣人関係や孤独感から地域のイベントに参加したくても躊躇している人は多いと感じる。知った顔同士の関係性、高く分厚い壁が見えて馴染めない人が居れば、入って来てもらい易い鍵の無い透明なドアを設けること、地域を知っている我々はお金のかからない事から努力・検討・改めるべき点かと思う。それには行政や報道、民間の力も必要。それぞれの組織が具体的に得意な事、不得意な事をテーブルに乗せて初めて一体となって前向きな話し合いができるのかもしれません。自治会費が高いから入会しない又は脱会するのは飛び込む勇気の無さや楽しさや人間関係、加入している必要性を共有できていない口実の一つかもしれません。

5.アプローチのありかたについて

各組織でイメージするものは違うと思いますが、いきなり重要性を押し付けても重く感じてしまう人は多いと思う。思い切った方針を意見できますと良いのですが、以下の点で無理なく行える事として消防団は一緒にアプローチできるかと思っています。

- ① 安全規定、消防業務の法令上、認められれば防災、防犯、自治会加入を兼ねた防火広報を自治会長・役員さんが消防団車両に同乗して一緒に広報実施する。

11月9日～1週間。年末年始時期。3月1日～1週間の開始日初日又は最終日等。

- ② 自治会が開催する防火訓練、避難訓練に地域を代表する各団体を招いて実施する。
- ③ 祭りなどの地域イベントでの未加入世帯への招待案内を兼ねた消防車での広報。

※寛容な会計処理・会費制が可能な範囲

- ④ 公民館を使った子供会や職場で同世代の若い未加入世帯との交流。（若い世代限定）
※持ち寄り自費参加・少々の援助・別途、世代ごとの趣味や交流もあって良いかと。

以上 消防団員としての立場からみた事を記載いたしました但し既に実施、検討されておられる事もあるかと思っています。特定の自治会や委員の皆様の活動に対する意見を述べたものでは御座いません。宜しく願い申し上げます。